

児童館・児童クラブのあり方検討（概要）

現状・課題

面積の確保

- 十分な広さの確保

児童クラブ登録児童数の急増等により、生活の場・遊び場として十分な広さを確保できていない児童館がある。

- 児童クラブ以外の児童館機能の確保

児童クラブ専有割合の増加により、子育て家庭支援機能など他の児童館固有の機能を縮小せざるを得ない児童館がある。

老朽化・人口減少社会への対応

- 児童館の老朽化

およそ5割の児童館が築20年を経過しており、大規模改修工事等老朽化への対応が必要となっている。

- 人口減少社会への対応

学区により、児童が急増する地域、減少する地域が存在し、地域ニーズに合わせた対応が必要となっている。

ICT利活用の遅れ

- 児童クラブ業務へのICT利活用

入退館管理、保護者連絡等を紙媒体で行っており、保護者・児童館双方の負担となっている。

- Wi-Fi環境の整備

1人1台端末での宿題対応のためWi-Fi環境が必要となっている。

人材の確保・育成

- 人材の確保・業務負担の増加

登録児童の増加により必要となる職員数も増加しているが、恒常的な保育士不足等により職員の確保が難しくなっている。また、児童クラブの大規模化や要支援児の増加により業務負担が増加している。

- ノウハウの蓄積

非常勤職員の割合が高く、育成支援・相談支援・要支援児への個別の配慮などノウハウの蓄積、継承が難くなっている。

環境整備の遅れ

- 防犯対策、エアコン設置

防犯対策のため、全館への防犯カメラの設置が必要となっている。また、エアコン未設置の遊戯室がある。

- 児童館の立地条件による課題

市民センターやコミュニティ・センター併設館、学校外のサテライト室など、小学校から児童の移動を要し、安全上の課題がある。

子育て家庭への支援

子育てにおける孤立や様々な不安・負担に対し、交流・息抜き・相談支援の場や、負担軽減の支援が求められている。

安全の確保

不審者や自然災害の増加により、児童館・児童クラブにおいても一層の安全の確保が求められている。

基本理念

- ◆子どもをまんなかに、子どもの最善の利益を保障し、子どもの健全な育成を推進する
- ◆子どもや子育て家庭に寄り添い支える、身近な地域の子育て支援拠点としての役割を果たす

中長期を見据えた基本方針

1 児童の生活の場・遊び場の環境改善

子どもの視点に立ち、子どもが安全安心に心身ともに健やかに育つことのできる環境を計画的に整える。

- ・遊具・備品・図書の充実

- ・児童クラブ専用区画面積の拡大

- ・落ち着いて過ごせるスペースの確保

- ・Wi-Fi環境、防犯カメラ整備

- ・全居室へのエアコン設置

- ・安全計画の策定、定期的な見直し

2 多様性の尊重

- ・子育て家庭を支える地域の拠点

地域の子育て支援拠点として、誰もが利用、交流しやすい環境を整備し、要支援児を含め様々な年代の児童の育成や子育て家庭の支援などを推進する。

- ・子育て支援室の整備・職員の配置

- ・要支援児の支援体制強化

- ・中高生等の自由来館の促進

- ・地域交流推進機能の充実

- ・行事・イベントの充実

3 児童の育ちを支える人材、

持続可能な児童館・児童クラブ運営

地域の児童健全育成の拠点として、安定した運営を支える制度運用、人材確保・育成を推進する。

- ・職員体制の強化、処遇改善

- ・児童の健全な育成を支える人材育成

- ・保護者負担金の適正化

- ・指定管理者の公募化の促進

4 社会の変化に対応した施設計画

将来的な人口減少や共働き世帯の増加など、急激な社会の変化に伴う需要の変動に、柔軟に適応できるよう施設マネジメントを行う。

- ・小学校改築に合わせた合築化

- ・学校施設へのサテライト室設置

- ・小学校区単位の児童館整備

- ・児童推計を踏まえた児童館整備

- ・計画的な改築・大規模修繕の実施

子育て家庭の負担軽減のためのサービス拡充と、ICT利活用による利便性の向上や業務効率化を図る。

- ・長期休業期間中の注文弁当配送

- ・おやつの注文・業者配送

- ・入退館管理・保護者連絡用アプリケーション導入